

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第95号 2022年6月

発行人：後藤 克彦 編集長：猪名川 一雄 事務局長：吉野 博明
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684
ホームページURL：http:// me96tomon-waseda.la.coocan.jp/

2022年定時総会開催のご案内

2022年目黒稲門会定時総会を下記の通り開催致します。会員の皆様にはご多用の中と存じますが、是非ともご参加下さいますようご案内申し上げます。

第1部定時総会では、2021年度事業実績報告、同決算報告及び監査報告、2022年度事業計画案、同予算案、会長の任期満了に伴う新会長の選出、役員改選等の審議を予定しております。

第2部の講演会では、目黒区役所による講演を企画しております。

新会長のもとで集い語り合い、コロナにめげず早稲田の絆を深めたいと存じます。ご家族お揃いでのご参加を歓迎致します。

記

1. 日 時： 2022年7月17日(日)
16時開会(受付開始 15時30分)
2. 会 場： ホテル雅叙園東京
2階華しずかの間
目黒区下目黒1-8-1
電話：03-3491-4111(代表)
3. 交 通： JR 山手線、東急目黒線、地下鉄
南北線、三田線、目黒駅下車
徒歩約5分
4. 講 演： 講師 目黒区役所
演題 めぐろサクラ再生
プロジェクトの取組
- 5 参加費： 会員8,000円、ご家族4,000円
事前に参加費をお支払いください。
- 6 申 込： 2022年6月25日(金)まで

※コロナ禍の状況により、対面方式よりオンライン方式に変更する場合がありますのでご了承をお願いします。

さくら咲き心地よいまち ずっとめぐる

目黒稲門会は、社会貢献活動としてポリオ撲滅運動を支援するNPO法人「世界のこどもにワクチンを日本委員会」(JCV)に寄付しています。地域貢献活動としては、目黒区「サクラ基金」への寄付に加え、地域のボランティア活動「目黒川沿道清掃」への参加・協力等を行っています。

2021年策定「目黒区基本構想」の第3章「まちの将来像」の中で、おおよそ20年先に目指す「まちの将来像」として、

『さくら咲き 心地よいまち ずっとめぐる』と定めています。

今回の講演は、当会が目黒区の推進するサクラ基金への寄付を行って来ている意義について会員の皆様により一層のご理解をして頂くために企画しました。

目黒区サクラ基金への寄付
(2020年新年会)



中目黒のさくら
(2022年3月)



(金井 記)

各 部 会 か ら の 案 内 ・ 報 告

俳句部会

第143回「俳句部会報告」

日時 2022年4月11日(月)郵送句会

(順不同)

川井素山	散るままに花を受けゐる石仏
保井寶正	日ノ本をせめてねぐらに残る鴨
佐久間喬	オール打つ水のやはらかく残る鴨
丸山酔宵子	鍵閉まる音を遠くに桜散る
吉田啓悟	^{ながら} 存へて白木蓮は夜明けかな
青木英林	つがひにて新天地あり残る鴨
山本草風	父聴けよ今年の初音父の庭
佐久間たか子	ひと風に自在模様の花筏
渡辺鯨波	ダヴィンチが病巣を取る四月馬鹿
後藤克彦	散り残る花に蠢く毛虫かな
原 晶如	水脈ひろげ濠の真中へ残る鴨
青葉ひかる	花まつり母の命日暮行く
永井正孝	沈丁の匂ひの案内夕散歩
金森純女	春の宵あともう少し歩こうか

＜中原主宰の選んだ秀句と評＞

鍵閉まる音を遠くに桜散る

近くと遠く(音のみか?)—という空間設定があり、一寸面白い今までになかった景を書く

つがひにて新天地あり残る鴨

残った鴨が番で(夫婦になったかどうかだが)新天地を歩み出そうという目出たい句

父聴けよ今年の初音父の庭

生きている父なら父だが上／5(亡くなった父)の方が父の残した庭にうぐひすが来ていて聞けと言っていてよいのだが

ダヴィンチが病巣を取る四月馬鹿

医師が遠隔操作で(いってみれば機械の力を借りて)というのが万愚節のようだが、ダヴィンチは4/1だけでなく一年中使うからね

第94号俳句部会報告の訂正です。お詫びして訂正いたします。

川井素山 (正) 錠剤の飛んでいづこへ寒の入り

(誤) 錠剤の飛んでいづこへ

俳句部会長 佐久間 喬

囲碁部会

コロナ禍の下、「呼びかけの碁」と言うネット碁により2021年10月より始まったリーグ戦は本年3月

19日に第3ラウンド全ての日程が終了し、優勝は小倉氏、2位は小岩氏、3位は狩野氏と市川が入賞致しました。参加人員は8名でした。

本年4月9日より前年度と同じく「呼びかけの碁」を利用して、本年度上期の新たなリーグ戦を開始致しました。上期は現在の予定では第1ラウンドは4月～5月、第2ラウンドは6月～7月、第3ラウンドは8月～9月です。9月末には上期の入賞者が確定する予定です。

この「呼びかけの碁」による対局はあらかじめ決められた日程表と手合割(ハンデ)に基づき各対局ペアが原則土曜日か日曜日を利用して対局を行い、対局ペアの一方または両者の予定がつかない場合は両者話し合いにより都合の良い平日を利用して行っています。また、手合割はラウンド終了ごとに調整を行っています。

以上の如くコロナ禍の下であっても囲碁部会のリーグ戦は毎週熱い戦いを繰り広げています。

なお、コロナ禍終息の際は「呼びかけの碁」に加えて毎月の第三土曜日の午後に対面による例会を開く予定です。これにより、ネット碁をされない部会員もリーグ戦に参加できるように日程調整する予定です。

また、囲碁に興味のある方、始めてみたい方、腕に自信のある方は市川までご連絡下さい。

囲碁部会長 市川 亘

麻雀部会

蔓延防止策解除を受け、昨年12月以来の例会を4月18日に開催しました。まだ、都内感染者が1万人前後と高止まりしている中でしたので、参加者は8名と2組での対戦でした。

会場は前回通り目黒権之助坂沿いの“麻雀 華”で東南半荘4回戦を戦いました。最初の3回戦までは対戦相手を変えての50分時間制。最終回のみ成績順に卓を囲み、60分の勝負となります。

会費は賞品代を含め1名3000円です。

今回の成績は、なんと最高齢参加者の千野さんが優勝、2位は前回から参加の川崎さん、3位は本田さんでした。また、栄えあるBB賞は宮村さんが獲得しました。その他は参加賞。

前回から運営法を改めたことから、負けを気にせず気楽に勝負できたようです。

次回の例会は6月の第3月曜日、20日に同じ会場での開催を予定しています。

興味・関心のある会員は是非メンバー登録されるようお願いいたします。

麻雀部会長 村上 柊

ウォーキング部会

第147回「大山道を歩く第一回」(赤坂御門から渋谷まで)
2022年4月19日(火) 参加 10名

新しいシリーズ企画として「大山道を歩く」を始めた。第一回は、江戸から丹沢の名峰大山を目指す大山道の出発点である赤坂御門から渋谷まで、青山通りに沿って歩いた。

東京メトロ・赤坂見附駅を出発し、赤坂御門を目指す。弁慶橋の袂から外堀通り沿いに坂道を永田町方面へ上ると、左手に石垣の遺構が現れる。ここが江戸城を守る門の一つ、赤坂御門だ。当時は敵の侵入を発見する施設でもあることから「見附」とも呼ばれていた。

遺構の北側、紀尾井テラス前の公園で準備体操後、



＜赤坂センタービル脇で＞

一路渋谷を目指す。青山通り沿いは舌状台地特有の坂が多いので、そこを少し歩いたり、あまりの急坂は覗くだけにしたりと、青山通りを右に

左に渡りながらの行程だった。

さて、赤坂御門の次は赤坂一ツ木通り近く、真言宗智山派の赤坂不動尊・智劔山威徳寺へ。ここは赤坂センタービル脇で、伝教大師ゆかりの不動明王(805年の故事)を本尊として、11世紀に下総(千葉県)で建立され、1600年にここ赤坂・一ツ木の地に移った。徳川幕府開闢前のことだ。また、紀州徳川家の祈願所でもあり隆盛を極めたようだ。江戸の大火、大震災、戦災を潜り抜けた霊験あらたかなお寺と言う。

青山通りを渡り、豊川稲荷を三角形に囲む二つの坂、九郎九坂、弾正坂を回ってから豊川稲荷の境内へ。稲荷と言うと神社と思うところだが、ここは曹洞宗・圓福山妙嚴寺、歴としたお寺だ。あの大岡越前守忠相が豊川稲荷を信仰していて、その没後に屋敷から現在地に移されたそうだ。

青山通りを再び南へ渡り歩き続ける。薬研堀の急坂を見遣りながら暫く行くと、カナダ大使館の手前



＜高橋是清像＞

にある高橋是清記念公園(港区)に着く。1600坪ほどの高橋是清の居宅跡を公園としたもの。青山通りの車の行き交う騒音から離れて、高橋是清の

銅像、石像などが回遊式の池を取り囲む、緑の多い公園である。しばし公園のベンチで休憩。



＜高橋是清記念公園の庭にて＞

東京メトロ・青山一丁目駅を過ぎて、同外苑前駅に近づくとき長青山寶樹寺梅窓院の竹林参道が見えてくる。徳川幕府老中も務めた郡上藩主青山家の下屋敷内に建



＜梅窓院＞

てられたお寺で、青山の観音さんと呼ばれ、青山通りの由来となっている。参道脇の竹林には、丁度おもしろいような竹の子が頭を出している。誰ともなく「これ掘ったら駄目かな」とつぶやく声が聞こえてくる。

表参道手前で向こう側へ渡り、善光寺へ。ここは長野善光寺の別院である。境内には、蛮社の獄から逃れこの近くに潜伏中、捕り方に襲われ自害した高野長英の記念碑(勝海舟筆)、人力車発明記念碑や芭蕉の句碑などがある。

仕上げは青山学院の西側を南下して、六本木通りを渡り渋谷・青山の鎮守、金王八幡宮を目指す。八幡宮の手前には天台宗のお寺、渋谷山親王院東福寺がある。12世紀後半の建立で、渋谷区最古のお寺と言われる。境内では庭の湧き水から小川が流れ、小粒だけど凛としたお寺だった。金王八幡宮はその隣にあるが、もともと渋谷城であったところ。11世紀後半にこの辺り一帯(谷盛庄)を治める豪族、河崎基家により建立された。下って1092年、源義家が平将門の乱平定の為宿とした所が東福寺になる。

さらに下って当主河崎重家が八幡宮に子を願って

祈願したところ生まれたのが、渋谷金王丸。1156年の保元の乱で源義家の先陣を務め戦功をあげたという。金王八幡宮の名前は彼からきている。広い境内のベンチで一休みして、宮益坂へ向かって解散した。



＜金王八幡宮＞

ウォーキング部会長 吉野博明

ヨット部時代の思い出

大西真凜（令和2年 文）

早稲田大学といえば、ヨット界では言わずと知れたヨットの名門校でございます。過去10年間では6度の全日本インカレ総合優勝に輝き、全国の高校生セーラーたちが早稲田大学ヨット部の一員になることを夢見ております。また、数々のプロセーラーを輩出しており、東京オリンピックでは私が大学2年生の時に主将を務めた岡田奎樹氏が日本代表として出場し、見事入賞しております。

そもそも、ヨットとはどのような競技かご存知でしょうか。一口でヨットと言っても様々な艇種があり、オリンピックではセーリング部門だけで10種目あります。大学ヨットは2人乗りの小型帆船である470クラス、スナイプクラスの2種類が競技種目であり、各クラス3艇ずつ、両チーム合わせて6艇の合計点で競う団体戦です。全日本インカレでは1クラス24チーム計72艇が参加し、一斉にスタートして、着順がそのまま点数となります。つまり、チームの中で1艇が1位でも、他の2艇が50位や70位であれば総合点で優勝を目指すことは難しく、逆に3艇とも安定して20位以内を取り続ければ優勝することができるといふ、チームの総合力が試される競技形式です。スタートからゴールまで約40～60分かかるレースを合計10本、4日間かけて行うため、心身ともに消耗する過酷な競技でもあります。また、刻々と変化する自然を相手に、風や波、潮、雲から情報を読み取り、大海原の道なき道の上で最短最速ルートを模索するため、体力や筋力以上に論理的思考回路や戦略、センスが問われ、男女混合競技でありながら女性も大いに活躍できるのも特徴の一つです。そんな奥深い競技で勝ち続けている早稲田大学ヨット部の強さの秘訣は、圧倒的練習量と長い歴史の中で築き上げられた文化だと言えるでしょう。ヨット部の練習は海上に限定されるため、葉山と八景島にある合宿所を拠点に活動します。朝8時に出艇し、海上で昼食を取って17時に着艇、その他に朝と夕方のランニング及び筋トレ、夜には2時間のミーティングなど1日の大半をヨット部に捧げ、豪雨であろうと雪が降ろうと練習するため、盆も正月も含め1年の半分以上を海上で過ごしておりました。特にマネージャーや下働きの1年生などサポートチームの部員たちは忙しい合間を縫って合宿飯を作ったり、掃除をしたり、買い出しに行ったりするため、自由時間はほぼ皆無であり、言葉に言い表せないくらい毎日が辛かったことを覚えております。そんな過酷な日々を

耐え忍び、真摯に練習に打ち込む部員たちのモチベーションはひとえに全日本で優勝することでした。「チーム最優先」という共通認識を毎朝全員で唱え、滅私奉公の精神ですべてをヨット部に尽くし、チームをより一丸に、より強くしていたように感じます。

ここまで過酷な部活だと知らずにマネージャーとして入部してしまった私ですが、きっかけは新入部員歓迎の時に先輩から掛けられた言葉でした。

「ヨット部でマネージャー文化を作ってみない？」私が入部した当時、ヨット部は全日本2連覇を果たし、3連覇を目指している段階でした。3連覇達成のためにもサポートチームの強化を課題に新たにマネージャーチームを組織作ることを目論み、勧誘されたのです。結局マネージャーとして入部したのは私だけで、ひとりでマネージャー文化の構築を任せられたのでした。私にとってヨット部での4年間は何かのきっかけから何かを作りだすことの難しさを痛感する貴重な体験でした。チームにマネージャーを迎えて良かったと思ってもらえるよう、マネージャーの存在意義を模索し続け、単なる雑用係ではなく、栄養管理やレース分析、サポートチームの運営、他大学との交流を通じた情報収集など様々なことに挑戦し、どこの大学にも負けないマネージャー文化を構築することができたと自負しております。元々、ヨット部のマネージャー事情として、大抵の大学のマネージャーは日中も陸で働き、炊事を任せられるのが一般的でしたが、早稲田のマネージャーは「水陸で活躍」をモットーに日中は選手とともに出艇し、サポートボートを運転してレース運営も担当しました。それに追随するように他の大学のマネージャーたちもどんどん海上に進出し、ヨット部界隈のサポートチームの水準底上げにも貢献できたと思います。

決して楽しいことばかりではなく、寧ろ辛いことがほとんどのヨット部での日々でしたが、そこでの経験は間違いなくかけがえのないものであり、輝く青春の1ページとなりました。皆様も是非葉山に遊びに来て、早稲田大学ヨット部の応援にいらしてください。



ハワイアン大好きでした

川崎秀一（昭和45年 法）

コロナ禍により多くのコンサートや音楽活動が中止になってしまいました。私は音楽を聴くのが好きで時々ライブやコンサートに行っていました。最近では昨年12月初め、角田健一ビッグバンドコンサートに行ったのが最後で暫く行っていません。JAZZのビッグバンドやピアノトリオなどを以前は聴きに結構行っていたのですが、この2年ほとんど行けなくなりました。特にピアノトリオは狭い密集空間で演奏される事が多いのでコロナ感染のリスクを感じて近寄らなくなりました。応援していたピアノトリオ山本剛君は今頃どうしているのか、ミュージシャン達も人生が変わってしまったのではないのでしょうか。

さて、JAZZの話は又別途する事にして、今回はハワイアンのお話をしたいと思います。我々が早稲田に在学していた頃、早稲田大学に5大バンドが有ったのは記憶の方も多と思います。記憶が間違っていなければ、ハイソサエティオーケストラ、ニューオルリンズジャズクラブ、ナレオハワイアンズ、オルケスタデタンゴ早稲田、モダンジャズ研究会、以上の5バンドを示していたと思います。いずれも懐かしきもう一度聴いてみたいです。今はクラブが存続していても音楽内容が変わってしまい昔の面影はありません。時代の流れと言えやむを得ない事だと思います。

話は変わりますが、社会人になって10年位してからだったと思いますが、ふとしたきっかけで、早稲田大学を卒業してプロになっていた「白石信とナレオハワイアンズ」の演奏を聴く機会がありました。まだまだ当時はハワイアンも陰りが見えたと言っても多くのバンドが活躍していました。その様な状況の中でもナレオハワイアンズが気に入ってしまい、当時赤坂にあったタパルームと言う白石さんの店に月に2～3回ぐらいは通っていました。白石さんは1932年生まれですから当時未だ50歳位だったと思いますがいつも素晴らしい演奏を聴くことが出来ました。ここはハワイアン専門の店で演奏の合間にはフラダンスのショーや、昔ハワイアンの演奏をやっていたと思われる会社の役員さん達が競って演奏や歌を聞かせてくれるなど本当に楽しい店でした。そしてハワイアンと言っても純粋なハワイ民謡から「小さな竹の橋の下で」「南国の夜」「月の夜は」「ブルーハワイ」と言ったポピュラーなハワイアン、そしてJAZZのスタンダードナンバーや映画音楽、更にはハワイアン風歌謡曲例えば「秋の夜は更けて」「さよならホノル

ル」「好きだった」等など幅広い曲があります。これらの曲をスチールギターの甘い演奏で聴くとこれまた何とも楽しいものです。その様な訳で気分転換に10年くらいは通っていましたがその後私も仕事が忙しくなりご無沙汰しているうちにこの店も閉店になってしまい、暫く縁が切れていました。

ところが、2016年の早稲田大学商議員会総会後のパーティーでクラブの先輩である元フジテレビの露木茂さんに会って昔話をしていたら、露木さんもタパルームに通った口だという事が分かり盛り上がりました。考えてみれば、早稲田大学在学中、露木さんはナレオの司会をやっていたのですからタパルームに行くのは当たり前と言え当たり前でした。それはさておき、そこで露木さんから毎年夏、高輪プリンスホテル飛天の間を借り切って「ナレオ・パーティー」と言うお祭りをやっているから是非来たらとお誘いを受け切符を買って2017年夏初めて参加しました。



2017年のナレオパーティー 創部71周年

その会場はまさに、アロハやハワイアンドレス、レイで着飾った老々男女であふれ熱気がむんむんするほど、確か1,000人規模の大パーティーだったと記憶しています。白石さんの昔懐かしい演奏はもちろんの事、現役学生のフラチームの踊り、ゲストのボニージャックスの演奏など青春が蘇る楽しい会合でした。それ以来2018年、2019年と毎年参加、私もアロハに白いデニムパンツ、白いデッキシューズなどこのパーティーの為に衣装を揃えて参加していました。それが、コロナ禍の為に2020年、2021年と残念ながら中止になってしまいました。白石さんも今年で満90歳、2019年の夏のナレオパーティーでは88歳現役で見事にスチールギターやウクレレの素晴らしい演奏をしていましたがこのままコロナの為に中止が続くと、白石さんの演奏を聴けなくなるのではないかと心配しています。今年こそ何とかコロナ禍が一定の収まりを見せて、この夏は是非、楽しいナレオパーティーが開かれる事を熱望しています。青春をもう一度、皆さんも興味あればご一緒に行きませんか。ハワイアン、本当に楽しい音楽です。

ハワイのゴルフ場支配人時代

永田耕治（昭36年 商）

自動車メーカーのホンダにいた私が何故ハワイか？というところから話を始めます。今から47年前の1975年、当時36歳の私は本田技研工業の島根県松江営業所の所長をやっていました。

その年の3月頃突然本社転勤の電話がありました。部署はR計画室という訳の分からないところでしたが赴任してみるとそこはゴルフ場買収の企画室だったのです。

取引先の或る損保会社からホンダに、ハワイに持っているパールカントリーというゴルフ場を買ってくれないか、との話がありその検討のために急遽できた僅か10人足らずのチームでした。

英語もろくに出来ない私が英文のリース契約書を海外ビジネス専門の弁護士さんの助けを借りながら理解したり、経理部出身の人と事業計画を立てるなどしていよいよ譲り受けようか、というところまで来ました。

ホンダという会社はエンジンのついた乗り物の開発生産が本業で不動産など他業種にはいっさい手を出さないという社是のようなものがありましたので当時リタイアしたばかりの本田宗一郎さんに買ってもらうということになりました。

本田さんは現役時代はゴルフなどいっさいやらず、まさに仕事一筋のひとでした。67歳で社長を退任した後、ひとに勧められてゴルフを始めたようですが、まさかゴルフ場のオーナーになるとはご本人も思わなかったはずです。

ただ根っからの技術屋ですからゴルフクラブなどをいじるのも大好きだったようでドライバーのヘッドを小さくしたらその分空気抵抗が少なくなりヘッドスピードが上がるのではないかと考え当時は木製だったヘッドを自分で削ったという逸話も残っています。

さてゴルフ場の従業員は全員そのまま働いてもらうことにしましたので、ホンダからは責任者が一人行けばいいということでなぜか私が選ばれ急遽その年の12月にホノルルへ赴任することになったのです。スピードのホンダと言われますがまさにこんな感じで会社は動いていました。

ゴルフ場の運営に当たっては本田さんから言われたことは利益のことなど考えずに地元の人たちに喜ばれるゴルフ場にしたい、の一言でした。

それまでゴルフもあまりうまくなかった私ですが面白い経験をいろいろさせてもらいましたのでその一端をお話します。

ある日有名な青木 功プロが来場し、クラブの専属プロと一緒に私もプレイすることがありました。1番ホールで青木さんがボギー、私がパーで上がり、なんと私があの青木プロに1ホールだけ勝ったのです。

ティショットを右のヤシの木の根元へ打ち込んだ青木さんが、朝イチで肩が回らねえなあと素人のようなことを言ったのを今でも覚えています。

次の2番ホールでプロ二人はパーオンし、私がバタバタしながらようやく遅れてグリーンオンした際、青木さんがなんと私のボールをピックアップして拭いてくれていたのです。彼は見かけは粗野な感じの人ですが、なかなかの人だと思ったものです。



ゴルフ場支配人時代の筆者

ゴルフ場の支配人と言っても日常の仕事はすべて現地の従業員がやってくれるので私は主に総務的な仕事をやるわけですが、初めてのアメリカでは知らないことばかりでしたので日本語が話せる日系人の弁護士さんに相談することがよくありました。例えばゴルフ場の奥の方から無断で入ってくる人を防ぐため周囲を鉄条網で囲ってはどうかと相談したところ、ハワイの法律では鉄条網は動物を囲うためのもので人に使ってはいけないうたとか、ウエイトレスを採用する広告を出す際も「ウエイター＆ウエイトレス」にしなければいけない等々いろいろ勉強になりました。

そのころすでにアメリカでは男女平等に雇用機会を与えなければいけないという法律があったのです。当時日本で人を採用するときには○歳以下の女性、容姿端麗などと言っていた時代です。アメリカと日本社会の大きなギャップを感じたものです。

このようにハワイの法律や習慣などを徐々に学びながら本田宗一郎さんの願いでもあった地元の人に喜ばれるゴルフ場にすることができたと思っています。約3年のゴルフ場勤務の後、本業の自動車メーカーに戻ることにりましたが若い時のハワイの経験は今でも楽しい思い出として残っています。

目黒わが町自慢

大橋 田島清志（昭和52年 文）

「大橋」は交通至便の町だ。町の真ん中を国道246（玉川通り）と高速道路が通り、環状6号線（山手通り）も交差していて、渋谷にも新宿にも品川にもアクセスがよい。東急田園都市線の「池尻大橋駅」もあって電車通勤にも都合がよく、住宅地として人気が高い。町の不動産屋さんの話では、「なかなか住宅の空きが出ず、空きが出てもすぐに決まってしまう」そうだ。

玉川通りの源をたどると、江戸時代には大山街道と呼ばれ、大山阿夫利神社への参拝（大山詣り）ルートとしても大いに栄えたという。静岡の茶や秦野のたばこもこの道を通って運ばれた。明治には、陸軍乗馬学校、騎兵第一連隊など大規模な陸軍関係の施設が設けられた。当時の大橋には、鞍や蹄鉄などの馬具を扱う店、軍服や軍隊用雑貨を売る店が軒を連ねていたらしい。

戦後はこれら軍関係の大型施設跡地が目黒一中、駒場高校、第三機動隊などに姿を変えた。

このように大橋は、太平洋戦争の大空襲により灰燼に帰した後、1964年の東京オリンピックに合わせた玉川通りの大幅拡幅、2013年の「大橋ジャンクション」開通など、何度も町ぐるみの激変を繰り返してきた。

今では、大橋ジャンクションの両脇に42階建ての「クロスタワー」、27階建ての「プリズムタワー」がそびえ、そのビルをつなぐように四季の植栽に彩られた公園（目黒天空庭園）が広がる。

ちょっとした未来都市を思わせる景観を、天正年間からの歴史を誇る町の鎮守、氷川神社はどんな思いで見つめているのだろうか。

なお、「大橋」の名の起こりは目黒川にかかる大橋という橋に由来している。古老の話では、東京で「大」の字がつくのは大橋と千住大橋しかない」ということだが、さて、どうだろうか。



目黒天空庭園

目黒の坂巡り

柿の木坂 市川 亘（昭和51年 商）

皆さんの多くが柿の木坂とは、都立大学駅からパーシモンホールに登って行く坂だと思っていませんか？ しかしこの坂は正式には「天神坂」と言いつつ、坂の途中に北野天神があります。しかしながらこの通りはまた「柿の木坂通り」とも呼ばれています。ややこしいですね。

では、現在の柿の木坂とはどこか？ 答えは、旧大山街道と目黒通が交わる BMW 店あたりから環七と交差するいわゆる柿の木座陸橋の交差点までの坂



を指すようです。その環七を超えると向こうは谷となり、そこは碑文谷となります。つまり環七は尾根伝いに造られた道路であることが判ります。多分尾根だけに地価が安かった ので土地買収も楽だったのでしょう。また大火等の災害を食い止める意図をもって尾根沿いに造られたものと思います。勿論、環七が東京の大物流を担うのが第一目的であったことは言うまでもありません。

では、柿の木坂陸橋の交差点あたりを実際に見ますと、現状はかなり緩い坂です。多分環七造成当時に道幅を確保する為にかなり坂を削ったものと思われる。尾根の頭頂部の急峻な部分はかなり切り崩されたことでしょう。まして目黒通りとの交差点であれば、なおさら削られ平らにされたものと思われる。

ところで柿の木坂のネーミングは伝承によると、三説程あります。①実際この坂に柿の木があった。②悪童達が農夫が坂上まで引き揚げた大八車から農夫の目を盗んで柿を引っっこ抜いて食べた。つまり「柿抜き」の転化。③夕暮れは人通りも無く、怖いので駆け抜けて通った。つまり「駆け抜け」の転化。どれであるか定かではありません。

坂の由来はどうあれ、柿の木坂という町名はなかなか垢抜けているとは思いませんか？

自由が丘が「自由ヶ丘学園」から採ったネーミングで、ハイカラなイメージがしますが、実際にハイセンスな街となりました。柿の木坂も垢抜けたネーミングのおかげか今は瀟洒な家が建ち並ぶ雰囲気の良い住宅街となりました。ネーミングって大切ですね。

会員ギャラリー

『パリの街角』 油彩 F10号
大杉邦雄（昭和40年 法）



今回は2年半前にパリの街角で撮った写真の中から、シャンゼリゼのカフェテラスで、お茶を飲みながらくつろいでいる人々を描いてみた。まだコロナが拡がる前の、平和な日常生活の一コマである。

写真をスケッチ代わりにするのは、邪道だと考える人がすくなくないが、私は旅先で時間や場所に制約があるときは、写真を利用して描いている。

60歳半ばから絵を描き始めて、15年になる。

絵になる風景を探してあちこち旅をするようになった。（今はコロナ禍で中断）絵をはじめなかったら、行かないようなところにも出掛ける機会が増え、世界が広がった感じがする。

『紅白枝垂れ梅』 写真
吉田博行（昭和42年 政経）



本年3月4日、東急東横線大倉山駅から徒歩7～8分の大倉山公園・梅園を訪れた。現在32種類、約2200本の紅・白・ピンクの梅が咲き、高台から見下ろすと素晴らしい景観であった。写真は、公園の高台から眺めた紅白の枝垂れ梅である。

新入会員



繁田達成（平成28年 法）
（目黒区碑文谷在住）
虎ノ門にて弁護士をしております、繁田と申します。広島県出身で、早稲田大学に入学してからは東京での暮らしが続いております。娘の誕生や、所属事務所の移籍などを機に、昨年の春に目黒区へ引っ越して参りました。若輩者ですが、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

新家族会員（敬称略）：海口澄子

校友会便り

2022年3月13日（日）、2021年度東京都23区支部大会が2年ぶりにリーガロイヤルホテル東京で開催され、支部会員147名、目黒より8名が出席しました。

新型コロナウイルス感染拡大のため、萬代校友会代表幹事、来賓挨拶、田中総長によるプレゼンテーションおよび国際文学館十重田裕館長による「国際文学館（村上春樹ライブラリー）の現在と未来」についての講演はリモートで行われました。

国際文学館は、坪内博士記念演劇博物館に隣接する旧4号館を当時の雰囲気を残しつつ大規模改修したもので2021年10月に開館しました。

本館は、新たな「村上春樹文学」「国際文学」「翻訳文学」の研究だけでなく、多様な芸術分野



と文学の交流の場になっています。

休憩後、懇親会に代えて支部各ブロック代表より挨拶、近況報告があり、従来の大会より30分繰り上げて閉会しました。（金井 記）

編集後記

コロナ禍も2年を過ぎてしまいました。ワクチンの4回目接種の話も出ていますが、これからも新型株の発生とワクチン接種が永遠に続くのではないかと考えてしまいます。

気の毒なのは学生で、新3年生は対面での授業やサークル活動の経験がほとんどありません。このまま卒業を迎えてしまったら、何とも寂しい学生生活になってしまいます。（猪名川 記）